

真木野の「アワヌシ様」と淡島信仰

蔵由美

1. 真木野の「アワヌシ様」探訪

8 月 3 日午前中、八千代市真木野の旧家山崎博康様の案内で、菅原さん・小林さんと神明神社の奥の山林内の「アワヌシ様」を訪ねた。

女性の下の病に効くという淡島神を祀る小さな神社で、祠の扉を開けていただき、中を拝見した。

本尊の木製の小さなお札（板曼荼羅）と、体の悪いところをなでるとよくなるといわれる丸石、さらに小さな土人形がたくさん奉納されていた。

板曼荼羅の表側には題目曼荼羅（特に「十羅刹女」が目立つ）、裏には、「維持文久二年壬戌年七月吉日」の紀年銘と「開眼主 高譽山（妙徳寺）廿八世本慈院日遵」と「施主 當村（真木野村） 山寄弥兵衛」の銘がある。

土人形は、女雛（官女？）・祢人形・福助などの「今戸人形」である。今戸人形は、今戸焼から派生して東京浅草の今戸や隅田川流域とその周辺で作られていた土人形で、伏見人形を母胎とし、2 枚の割型によって抜き出し素焼きし、その上に胡粉・泥絵具などで彩色している。人形が奉納される風習は、加太の淡嶋神社などの特徴で、加太では数多くのひな人形が奉納されている。

祠の前には 3 基の小さな手洗石があり、右側 2 基には明治 9 年と昭和 28 年の銘がある。

お参りに来る地域は、真木野のほか島田新田や神久保などの近隣の村も含まれるとのことであった。

2. 真木野の「アワヌシ様」のに関する文献資料

「鬼子母神信仰にみる民衆の祈りと姿」（1975 内野久美子）に、真木野の習俗の簡単な報告が載っていてその中で、「婦人病がある時は、腰から下の神さまで『あわしまさま』（粟島大明神のこと）へ行って治るよう祈願する。」と書かれている。

『史談八千代』34 号 P50「八千代八福神」の「妙徳寺」の項に「淡島神社は、神明神社の奥の山林に『アワヌシ様』と呼ばれる小祠がある。女性の下に効く神様で、お参りし祠の前に供えてある小石で身体を撫でると良くなるといわれている。」とある。

3. 淡島信仰とは

淡島神の信仰は、医薬神の少彦名命・大己貴命・息長足姫命を祀る和歌山市加太の淡嶋神社が総本社とするが、「加太の神社の神は住吉明神の後であったが、婦人病を患い淡島に流され、その苦しみ故に婦人病を治す誓願を立てた」という伝承から、女性の病気の治癒、子授かり・安産など女性の守護神として信仰される。

また一説に住吉明神に嫁いだ「婆利塞女（ばりさいじょ）」が婦人病を患い夫婦仲に障る事を嘆き、形代を作ってその障りを除いたといい、加太の淡嶋神社に女子から人形が奉納されるのはそれに縁ともいわれる。

また牛頭天王の後神に婆利塞女と同名の神女「頗梨采女（はりさいじょ）」がおり、その頗梨采女の「はり」から、裁縫の上達を祈り、針供養が行われる。

江戸時代に、淡島願人と呼ばれる人々が、淡島明神の人形を祀った厨子を背負い、淡島明神の神徳を説いて廻ったため、淡島信仰が全国に広がり、浅草寺の淡島堂ほか、多数の寺社に祀られている。

4. 近隣の淡島信仰の寺社や石造物

八千代市近隣の淡島信仰の寺社は、千葉市下泉町淡島神社（万治 4 年創建、土気本郷村日蓮宗本寿寺日静上人直筆の板曼荼羅が本尊）や千葉市中西町浄泉寺（日蓮宗の藻原寺末寺で生実領主森川家から寄贈された淡島尊天を祀る）、佐倉市江原の栗嶋神社、佐倉市野狐台町の淡嶋神社 習志野市鷺沼三丁目の栗嶋神社、白井市名内の栗島神社などがある。

境内社の石祠・石塔もよく見られ、八千代市では萱田の飯綱神社に文久 3 年の「淡嶋大明神」銘石祠、近隣では、佐倉市先崎鷺神社に安政 2 年の「淡嶋大明神」銘石塔、白井市神々廻の駒形神社に弘化 3 年の「淡嶋大明神」銘石祠がある。また野田市内には 14 基の淡島講の石造物がある（2006 石田年子『千葉県立関宿城博物館研究報告』第 10 号）。



本尊の板曼荼羅



「アワヌシさま」(淡島神社)



祠の内部



板曼荼羅裏面



今戸人形



丸石